

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域の方とのふれあいや地域の中の社会資源を大事に活用し、その人らしく安心して生活できるように家族の方と一緒に支えていくことを理念としている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者と職員は、理念を共有し、入居者様にゆっくり、じっくり寄り添い理念の実践に取り組んでいる。職員は、理念を自分で言えるようにしている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	入居者様やその家族等に、見やすくホーム内に掲示している。また、入居時はご本人、ご家族に説明し、他の書類と共に手渡している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣者への挨拶や散歩途中での挨拶を通じて馴染みの関係を作っている。地域でのグループホーム同士の交流会等を図り、交友関係、馴染みの関係を作っている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会の掃除の参加、地域のお宮まつり(御神輿)見学等を通じて地域の一員として地元の人々と交流することに努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	看護学生や大学生(福祉科)、福祉専門学校等の実習生を積極的に受け入れ、人材育成に貢献している。法人内で地域の認知症等でお困りの方へ認知症ケア専門士による相談窓口を開設している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は職員全員に報告をし、ミーティングで具体案を持ち寄り、検討し実践につなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動した報告や今後の活動予定を説明している。また、評価の説明や、評価結果の報告、質問、意見、要望等お聞きしサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当窓口の方との関係づくりは、まだ十分ではないが、解からないことがあったら積極的に教えてもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会で学んだり、他の施設で経験されている管理者の方に聞いたりしているが、職員全員理解が十分とは言えずこれからの課題と認識している。	○	職員全員が理解できるよう研修の機会を設けていきたい。また施設外で開催される研修会等に参加できる機会を作っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、法人内の勉強会や施設外の研修会へ参加して学びミーティング等で話し合い、理解浸透に努めている。また、職員間においても一人で問題を抱え込まないように話し合いの場を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で週に1回の研修会や、月に1回の勉強会を開催している。出席できない職員にも議事録の回覧と資料の配布を行いサービスの質の向上に努めている。施設外の研修や資格取得に向けての取り組みは、運営者からの研修費用の負担等、支援がある。	○ 施設外の研修や資格取得に向けて、職員が自ら取り組みやすいよう、雰囲気づくりに努めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業への参加や地域のグループホームとの交流する機会を持ち、活動を通じてサービスの向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの多い仕事と認識し、職員とはコミュニケーションを図りストレスの軽減に努めている。また、親睦会、慰労旅行、ボウリング大会、運動会、食事会等を実施している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の得意な分野を見つけ出し、現場で自信を持って取り組める様に意欲向上を図っている。資格取得に向けて努力している職員には、全面的に応援している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ずご本人に事前に会い、ご本人の抱えている不安や悩み等を聴くようにし、心を開いてもらえるよう努めている。しかし、少し慣れてきてから、少しずつ言われる場合もあるので気を付けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの経緯、苦勞等できる限り聴くようにし、何が不安なのか、何を求めているのかを受け止めるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援センターを軸とし、その人に応じたサービスが受けられるよう体制が整っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず事前にご家族やご本人に来ていただき見学してもらっている。入居当初は、ご本人が不安にならないように、職員がコミュニケーションを図り、ご家族の面会やご家族との連絡を密に取るように配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常々、グループホームは、一つの家族であり入居者様は、人生の先輩であるという認識を職員は持っている。また、教えていただく場面づくりを行っている。調理時、煮物等の味付けや漬け物作りを職員と一緒にやっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、必ず職員が入居者様の暮らしぶりを伝え、ご自宅で過ごされていた時の様子を伺い、取り入れるよう情報交換している。また、誕生会にはご家族に参加していただき、ゲームを一緒に楽しまれ、手作りケーキでお祝いをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等で撮った写真やご本人自作の作品等、ご家族に見ていただくようにしている。家族遠足を実施しており、ご家族との一時を楽しんでいただいている。入居者様の様子がご家族に少しでも解かるように、一行日誌をつけている。1か月ごとに配布している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆、お彼岸の墓参りやお身内の方の病院へのお見舞い等、ご自宅でしてきたことをそのまま引き継いでいただいている。	○	これからも、お墓参り、お見舞い等その人が大切に行ってきたことを継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様一人ひとりの性格の特徴を把握し、食事や水分補給時等の時間に、職員と入居者様がより多く会話を持てるような場面づくりをしている。調理の献立は、入居者様同士による意見を大事にして、献立表を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた場合は、親しくされていた入居者様と共に職員が訪問やお見舞い等をしている。行事(音楽療法・慰問)時、親しくされていた方が交流し過ごせる時間を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中で会話を大事にし、把握に努めている。入居者様の一人ひとりの意思を大切に、できる限り意向に添えるように、配慮している。意思疎通が困難な方には、家族の意向やご本人の立場に立って考え、より良い暮らしができるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の語りや、家族、知人等の訪問時など少しずつ把握に努めている。入居時にセンター方式によるこれまでの生活歴のシート(一部)を家族の方に記入していただいている。(分かる範囲で)しかし、入居生活に慣れてから少しずつ話される事もあり、会話により重要な課題が出てくる場合もあるので、その点にも気を付けている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様一人ひとりの生活のリズムを理解すると共に、生活、心理面の視点やできないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。	○	入居者様のケアプランが実行されているか、また、実行できない場合の理由等、毎日ケアプランチェック表で把握している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者様が、自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望、担当職員の意見を聴き、職員全員で課題となることを話し合い、介護計画の作成に活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、職員が記録する入居者様の状態変化や状況、ご本人・ご家族の要望に応じて見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者様の状態は、個別の介護記録に記載し、また、連絡帳等で職員間の情報共有を徹底している。また、記録を基に介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院が通路で結ばれていて、入居者様の体調に変化が見られた時は、看護師に相談したり、見に来てもらったりしている。また、dr. 指示による居室での点滴も可能である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	周辺地域への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけている。地域の保育室やグループホームとの交流や研修生の受け入れ等行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の図書館で好きな本を借りて楽しまれたり、また地域のスーパーで必要な物を購入されたり、よく利用していただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、アドバイスを受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっているが、協力病院に2週間に1回の訪問診療を受けている。協力病院に専門の科が無い場合(眼科、歯科、耳鼻科等)ご家族に連絡し、受診支援を行っている。または、ご家族にお願いして受診していただくこともある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接に協力病院があるため指示や助言を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護職員と看護師とは気軽に相談できる関係ができており、入居者様一人ひとりの健康管理や医療的な支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療関係者に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者様やご家族が安心してサービスを利用できるように、受診時の報告をご家族への報告と共に記録に残し、全職員で情報を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者様が重度化になられた場合、協力病院と連絡相談を密にして、ご本人やご家族の意向に添えるように支援している。	○	終末期ケアについて、現在前向きに検討している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント・ケアプランや支援状況を手渡すと共に情報交換を行い、馴染みの職員が機会を作って訪問に行くなどリロケーションダメージを最小限に食い止めるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして本人を傷つけないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。一人ひとりの性格を把握し、入居者様に合わせた声かけが図れるよう注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	調理日には、何が食べたいか意見を聞いている。おやつ、水分補給時にも飲みたい物を選んでもらっている。また、着用する衣類等も自分で決めていただけるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながらその日、その時のご本人の気持ちを尊重して個別性のある支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えやお出掛け時には、ご本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要ときに手伝うようにしている。自己決定がしにくい入居者様には、職員と一緒に考え、ご本人の気持ちにそった支援を心がけている。また、ご本人の馴染みの美容院で希望にあわせたカット、パーマをしてもらえるよう連携を取っている。	○ 個々の生活習慣に合わせ支援をし、また、行事等日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいきたい。 身だしなみに気を付け支援する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作り、入居者様に食べたい物を聞き決めるようにしている。また、季節の果物も食べていただけるよう心がけている。入居者様と一緒に買物に行き、調理、盛付け、片付け等も行い、同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。栄養バランスなどにも気をつけている。	○ 外食を定期的に行い入居者様が食べたい物をご自分で選んだり、お金を自分で支払ったり、楽しみを増やしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	いつでも好きなものを飲んでいただけるようコーヒー、ココア、お茶、紅茶、レモンティー、こぶ茶等を準備している。入居者様一人ひとり好きな飲み物を飲まれている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い入居者様のパターンを把握している。便秘が習慣な方には、かかりつけ医に相談している。失禁時には、さりげなく声かけを行い衣類交換を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、希望する時間に入浴していただいている。入浴拒否される方には、時間をおいたり、職員が変わって声かけを行っている。職員が一方的に決めず、入居者様のその日の希望を確認し、入っていただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくりと休息が取れるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。食事作り、食器洗い、草抜き、キーボード、洗濯たたみ、洗濯干し等職員と一緒にしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり、職員が管理している。外出時、入居者様の財布よりご自分で支払っていただけるようにお金を手渡すなど工夫をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者様の買物に職員が付添い行っている。気晴らしにドライブにも時々出かけている。天気、ご本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じてもらい心身の活性につながるよう日常的に散歩している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については、予め計画を立て職員の勤務を調整し、出かけている。場合によってはご家族の協力を依頼することもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや、職員からの声かけを行うと共に、会話が他の入居者様に聞こえないよう電話の設置場所を工夫している。 ご家族に手紙を書かれたりしている。	○	お手紙、年賀状など出すための支援を行う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族も親の家を訪れるような気軽で来やすい雰囲気づくりを心がけている。いつも笑顔で迎えるよう心がけている。他の入居者様に気兼ねなく過ごしてもらえよう、居心地のよい空間づくりを心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が拘束を行わないことを認識している。 緊急やむを得ない場合は、同意書にご家族のサインをもらい、実施状況の書類も残している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は実施せず、ドアを開放し、家庭的な雰囲気の中で生活していただいている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の様子をさりげなく確認・把握し、夜間は定期的な巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や刃物などの注意が必要な物品については、保管場所、保管方法を決めている。 異食のある方については、居室内に危険な物品は置かないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月に一回の避難訓練、ヒヤリ・ハットや事故報告書等の提出により、事故対策会議(リスクマネジメント会議)で事故防止策を話し合っている。行方不明に関しては、年に1回法人全体で非常呼集を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内で行われる勉強会に参加し、実技指導を受けている。地域の消防署の協力を得て、初期対応、応急手当の研修を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、月に1回、避難訓練をしている。地域の消防署の協力を得て、避難経路の確認、消火器の使い方等、訓練を定期的に行っている。また、法人全体で、月に1回災害対策会議を開き、地震、水害等のマニュアルを作っている。災害用の備蓄品は常備している。賞味期限がある物など、定期的に点検・入れ替えを行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者様の状態を確認、観察し、その都度、職員間で話し合っている。ご家族の面会時や家族会の時に説明を行い協力を得ている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日1回バイタルチェックを行い、また、異変時にはその都度行い、情報は共有し、速やかに対応を行っている。また、その変化や状態は、記録に残している。異変時には協力病院に連絡をし、受診または、往診に来てもらっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤について理解し、変化が見られる場合は、医師への連絡を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の飲食物は、調理献立やおやつ、水分補給等に工夫している。それでも便秘傾向にある方は、医師や看護師に相談し、薬剤を処方してもらっている。薬剤に頼っている面もあるので、繊維食品などを多く取り入れるようにし、牛乳やおちらし(はったい粉)等で自然排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者様のできる能力に応じ、必要な部分の支援を行っている。義歯については、定期的な剤洗浄を行っている。(週/2回)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量のチェックを行っている。管理栄養士に摂取カロリーや栄養のバランスを考えた献立を作ってもらっている。調理日の献立やカロリー等献立表を作り栄養士へ提出し、アドバイスを受けている。水分摂取量の少ない方には、水分チェック表を用いて把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内で行われる感染症予防の勉強会に参加している。感染症対応マニュアルを作成し、対応している。また、法人全体で月に1回、感染症対策会議を開き感染症の予防や対応の仕方など取り決めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は、夜間に消毒洗浄を行い、衛生管理に努めている。食器については、毎食後洗剤で十分に洗い流し食器乾燥機の熱風により衛生管理している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口の扉を開くと花壇に季節の花を育てベンチやプランターなどを置き明るい雰囲気になっている。気候のよい季節は、玄関のドアを開放している。また、生け花、鉢植え、めだか等を置き親しみやすいように工夫している。	○	季節感を感じる玄関や庭にしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が、自分の住んでいる家だという意識を高めていただけるような工夫をしている。狭い食堂であるが、季節に応じて壁面環境づくりをし、居心地よく過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭にベンチを置き一人で過ごされたり、仲の良い入居者様同士がくつろげるスペースを作っている。また、廊下のスペースを利用してテーブル、椅子、ソファ、小さいテレビを置いて、自由に過ごせるように配慮している。また、冬場は、ホットカーペット、こたつのスペースを設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物、写真や日用品が部屋に持ち込まれ、ご本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	オムツ類等、使用される方の居室内は、オムツ類を放置せず、プライバシーに配慮し分からない様に工夫しつつある。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂は、食事の後や一定の時間帯に換気をしている。居室は、毎朝入居者様の起床後、窓を開け換気をしている。天気不良日は、換気扇をまわしている。温度調節をこまめに行っている。トイレは換気扇と消臭剤で悪臭がでないように工夫している。	○	日中、居室内でポータブルトイレを使用されている方の処理を定期的に行い、悪臭と換気に気をつけ、今以上に努めていきたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせて浴室、トイレ、廊下等に手すりを設置している。居住環境が適しているかを常に見直し、安全確保と自立への配慮をしている。廊下の手すりを利用して、起立訓練、足踏み運動を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご本人によって「何が分かりにくいのか」「どうしたらご本人の力でやっていただけるのか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わり新たに混乱や失敗が生じた場合は、職員全員で話し合いご本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し入居者様が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている。また、庭に物干し台と竿を設置し、自由に洗濯物を干していただいている。そして、玄関先にベンチを置いて入居者様が涼んだり日光浴ができるような工夫をしている。	○	庭の空間を利用し、お茶を飲んだり楽しめる場所を作っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者様、それぞれ歩んで来られた人生や時代背景を職員一人ひとりが深く理解しようと努力し、ホームでの生活が充実するようなサービスを心がけている。
- ・近隣にコンビニエンスストアができ、散歩時に立ち寄りたりおやつを購入したりできる。
- ・地域のスーパーへ食材を買いに行ったり、また、お墓参りなど近隣の地域や社会とのつながりを大切にしている。
- ・協力病院が通路づたいに行けることで、受診時、入居者様の負担が少なくて済む。
- ・ホームの周辺は、季節を体感できる散歩コースがある。
- ・ホームの敷地内に庭や畑があり、入居者様と一緒に季節の花や野菜を育てることができる。  
(夏場は、居室の日よけの為に、ネットを張りゴーヤやアサガオを育てました。入居者様も一緒によく水やりをして下さいました。)